

那智伊國
轟瀧

龍崎村飛泉、此驛より左へ五里餘にして龍崎村に至る、路の程山道にして屈曲難所なり、此飛泉大熊川の岸上にあり、瀑布の如くならず、また簾の如くならず、大熊川水中の石壁なり、水の廣さ五十丈餘徑り二百丈餘の大飛泉なり、石壁の高き處或は卑き所、ひき、ものは水勢甚しく漲り、高きものは瀑布の如く、簾の如く、石巖にあたりて碎る水は玉をなし、水の飛ぶこと霧の如く、此飛泉にて鱈魚を漁するに、其味至て美なりと云、此邊の一奇觀なりとぞ、

〔十寸穗の薄〕牟婁郡那智瀑布　瀑布直立高百八間、廣幅時而變態不定、

一。瀧現飛龍

二。瀧如意輪瀧

三。瀧引瀧、一重瀧

〔南紀名勝略志〕牟婁郡一ノ瀧

本社ノ北六丁計ニ有、高サ百間計、廣サ廿七八間有、○中略

二ノ瀧

本社ノ西北廿二丁計ニ有、高三十間計有、山家集ニ曰、西行法師二ノ瀧ノモトヘ參リ著タリ、如意輪ノ瀧トナン申ト聞テ、科ミケレバ、實ニ少ウチカタブキタルヤウニ流下リテ、貴トクヲボヘケリ、

三ノ瀧八十五

本社ノ北西二十五丁計ニ有、高十間計有、

〔元亨釋書〕慧解釋仲算、不知何許人、○中安和二年於熊野山那智瀧下、講般若心經、忽現千手千眼之像、講已昇岩上、自此不見、

〔阿波名所圖會上〕鳴瀧　美馬郡幅山にあり、此瀧三段にして高き事二十餘丈、此瀧の脇に土竈とて、土中の岩屋に淵あり、石を投れば風を起して雨降る、

〔阿波名所圖會下〕轟瀧　轟瀧土人かれい　海部郡にあり、此瀧上に水分岩さしいで、千丈の巖兩方より

轟瀧

阿波國
鳴瀧